

# 委託事業実施内容報告書

## 平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

### 【日本語指導者養成】

受託団体名 にいがた多文化共生ネットワーク

#### 1 事業の趣旨・目的

平成20年度地域日本語教育支援事業(人材育成)「手話をもちいた日本語教室活動」のプログラムをもとに、地域日本語教室活動との活動交流を含め、子育て・学童支援のテーマを主体とした講座を行う。

#### 2 企画委員会の開催について

##### 【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
6月6日	ながおか 市民 センター	委員7名 その他4名	・事業趣旨について ・事業計画(日程、会場、講師等) の確認 ・事業に関する意見交換	事務局から昨年の事業内容 と今年度の事業内容を説明 後、出席者どうして事業に関 しての意見交換を行った。
9月13日	ながおか 市民 センター	委員4名 その他3名	・広報方法について ・9/26、27の講座内容検討 ・デモンストレーションについて	デモンストレーションにつ いて確認後、9月26日お よび27日の講座内容に ついて講師を中心として 検討を行った。
12月12日	阪之上 コミュニテ ィセンター	委員4名 その他1名	・9/26、27講座反省 ・12/12、13内容検討 ・次年度の検討	12月12日の講座内容の 反省および翌日の講座 について検討を行った。

##### 【写真】



第1回 開催時の様子



第2回 開催時の様子

## 養成講座の内容について

(1) 養成講座名

手話をもちいた日本語教室活動(子どもたちとのコミュニケーション)

(2) 養成講座の目標

以下の内容を講座に取り入れて、コミュニケーション障害関係者との人材育成をとおして日本語支援関係者のネットワークを広げていく。

①手話の活用ならびに手話との属性

②人的リソースの活用

③分野間連携の推進

(3) 受講者の総数 16 人

(4) 開催時間数(回数) 2 時間 ( 1 回)

4 時間 ( 2 回)

6 時間 ( 2 回)

(5) 参加対象者の要件

手話ボランティアおよび手話に興味がある日本語支援者

(6) 受講者の募集方法

・インターネット関係団体 HP からの募集

・チラシおよび県内日本語教室団体への郵送案内

(別添資料 募集チラシその 1、その 2、その 3 参照)

(7) 研修会場

・ながおか市民センター (9/13、9/26、9/27 開催の講座)

・阪之上コミュニティセンター(12/12、12/13 開催の講座)

(8) 使用した教材・リソース

・リソース型生活日本語／言葉の地図(松尾恭子作成 オリジナル教材)

・人的リソース(聴覚障がい者(ろう者)、在住外国籍住民)

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
9月13日 13:00～15:00	デモンストレーション 及び意見交換	・新潟大学 国際センター 足立祐子	5名
9月26日 13:00～17:00	分野間連携・異文間理 解  ・日本語支援(在住外国 人支援)に関する概論	・(社)国際日本語普及協会 松尾恭子	8名
9月27日 10:00～17:00	手話をもちいた日本語 教室活動 実施編  ・手話に関する概論  ・手話をもちいた日本語教 室活動	・(特活)H&D エデュケー ショナル 迫 利広 ・新潟大学 国際センター 足立祐子	9名
12月12日 13:00～17:00	日本語が苦手な子ども 達の支援  ・手話体験 単語練習  ・外国籍児童支援につい て	・(特活)H&D エデュケー ショナル 迫利広 ・(社)国際日本語普及協会 松尾恭子	12名
12月13日 10:00～17:00	手話をもちいた日本語 教室活動 子育て支援  ・手話体験 単語練習  ・子ども支援に関する事 例報告 ・意見交換	・(特活)H&D エデュケー ショナル 迫 利広 ・(社)国際日本語普及協会 松尾恭子 ・にいがた多文化共生ネッ トワーク 相澤 秀茂	14名

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

主な意見・感想

- ・日本語、ポルトガル語、手話、それぞれが1つ1つちがう言語だとゆう認識ができて良かった。
- ・参加者と直接話すグループ作業や話し合いが良かった。
- ・どのような趣旨で、どのようなことをやる内容なのか、もう少しわかりやすいと、より多くの方に興味をもってもらえる講座になったのではないのでしょうか。
- ・講座のコンセプトが曖昧なのではないかと感じた。

9月(前期)での講座では好意的な意見が多かったが、12月(後期)の講座は、わかりにくかったという意見が多かった。評価が分かれた結果である。

## ② 実施主体からの研修内容結果評

昨年度の評価項目をもとに昨年度と今年度の比較をおこなう。

- ① 先天性聴覚障害者が抱える日本語教育の課題などから、在住外国籍市民の抱える日本語支援等の課題をイメージしやすくなる。

今年度と昨年度との評価・反省 比較	
昨年度	今年度
<p>効果があったかどうかわからない。コミュニケーションのあり方を学ぶ意味において十分な効果があったと思われるが、日本語支援等の課題がイメージしやすくなったか、わかるのは次回以降の課題といえる。</p>	<p>情報保障という視点で後天性聴覚障害者の方からさまざまな意見が聞けた。後天性聴覚障害者に関する情報保障の課題は、在住外国籍住民に対する情報保障という視点と共通点も多く、在住外国籍市民の抱える日本語支援等の課題をイメージしやすかったのではないかと考える。</p> <p>情報保障という意味では効果があったが、言語的側面から考えると、第二言語としての日本語教育という視点が弱まったので、これは反省点といえる。</p>

- ② 災害時などの要援護者関係者同士のネットワークが生まれる。

今年度と昨年度との比較	
昨年度	今年度
<p>手話通訳関係者と情報交換をする機会があり、連携という意味では予想されたとおりの効果があった。しかし災害時の視点にかんしては、講座ではそこまで踏み込む余裕がなく次回以降の課題といえる。</p>	<p>災害という視点までは、踏みこんで話す時間がなかった。ネットワークという意味では、昨年より様々な分野の関係者の話しを聞く機会があり進歩があったといえるが、様々な人がはいたことにより目的がぼやけてしまい、参加者が違和感を抱いていたようにも感じられる。</p>

- ③ 日本語教育という視点から、日本語教育関係者の活動範囲が広がる。

今年度と昨年度との比較	
昨年度	今年度
<p>視点をかえるという意味で効果はあった。しかし直接的に活動は範囲が広がるかどうかは、このような講座を何回かおこない 社会的動向をさぐらないとはっきりとは言えない。</p>	<p>視点を変える意味で昨年と同様に効果があったと考える。しかし昨年と同様に直接的に活動は範囲が広がるかどうかは、このような講座を何回かおこない 社会的動向をさぐらないとはっきりとは言えない。</p>

④日本語支援に関する新しい形式の講座が開発できる。

今年度と昨年度との比較	
昨年度	今年度
新しい形式の講座を行えた時点で予想されたとおりの効果があった。	<p>昨年度は先天性聴覚障害者の方をゲストに招きナチュラルアプローチ法を日本語支援講座に組み込んだ形式の講座をおこなった。しかしこの形式はナチュラルアプローチ法での指導ができる先天性聴覚障害者の方がいないとできない特殊なものである。したがって今年は講座の一般化をめざして、手話の主体を「日本手話」から「日本語対应手話」に切り替え、これにより簡単な手話単語(サイン)がわかっている方がいれば、先天性聴覚障害者の方がいなくても実施できるものとなった。</p> <p>だれでも体験できる形式にした点はよかったと考える。</p>

⑤すべての人とのコミュニケーションができる力の育成ができる。

今年度と昨年度との比較	
昨年度	今年度
講座のねらいにつながるが、アンケートのコメントおよび意見交換感想などにより効果はあ	<p>手話体験にかんしては、外国籍住民の方も大変好評であった。これは展開の仕方では日本語教室活動に応用できるものであると考える。</p>

総合評価

今年度と昨年度との比較	
昨年度	今年度
5項目中、2項目は予想された効果があった。全体としては、実施できた点で十分評価できると考える。	<p>理論的な面に重点を置き実施した昨年度の内容にくらべ、今年度は事例紹介や手話体験など実技的・現実的な側面に重点をおいた。</p> <p>講座は、デモンストレーション2時間、前期講座10時間、後期講座10時間という内容でおこなった。前期は昨年の内容をふまえたものであり、後期は子ども支援の内容をいれたものであったが、前期と後期の内容の移行が上手くいかなかったような印象を持つ。これは反省点であり、全体のコーディネートおよび講座内容の確認を昨年以上に行う必要があったと考える。</p> <p>講座をとおして、講師関係者が病気で当日に参加できなくなるトラブルもあったが、全体的になにごともなく無事に実施できた点はよかったと考える。これは共催者の長岡市国際交流センターの協力があったの結果であり、関係者一同本当に感謝している。</p>

### ③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

#### A) これまでの経緯と今後の予定

- 平成 19 年度→平成 19 年度地域日本語教育支援活動(連携推進活動)  
聴覚障害者支援、子育て支援、まちづくり、各分野との連携推進のためのシンポジウムを実施。
- 平成 20 年度→上記シンポジウムより、手話の視点を取り入れ人材育成講座を実施。  
「手話をもちいた日本語教室活動」
- 平成 20 年度→「手話をもちいた日本語教室活動」の講座形式に、上記シンポジウムの「子育て支援」(学童支援)の視点を取り入れ人材育成講座を行う。
- 平成 22 年度→連携・協働事業を推進するため、実務者としての総合的な日本語支援者育成を目的とした人材養成講座を実施する。

#### B) 計画の理由

多文化共生のまちづくりの視点で考えた場合、日本語支援者だけの活動ではむずかしく、地域住民や他ボランティア関係者、他自治体・他専門家等との連携・協働が不可欠であるため、必然的に日本語支援者側に幅広い知識(運営・企画等)や経験が必要となる。

したがって連携・協働事業を推進するために、実務者としての総合的な日本語支援者育成を目的とした人材養成講座を実施する必要があると考える。

### (11) 事業の成果

#### ① 他事業との連携

A) 聴覚障害の子を持つ母親、他地域での日本語支援団体、子育て支援団体などの事例紹介を行い、様々な角度からの連携を試みた。



手話体験の様子



事例報告の様子

B)コミュニケーション障害のある住民に対する情報保障をどのようにするかという目的で講座関係者が中心となり企画を行い、春原憲一郎さん((財)海外技術者研修協会)を基調講演講師として招き、マルチカルチャー研修会((財)新潟県国際交流協会・国際化推進助成金事業)として今事業の運営委員会と同日開催として実施した。

事業名「マルチカルチャー研修会」

—内容—

・基調講演：春原憲一郎さん((財)海外技術者研修協会)

・パネルディスカッション

コーディネーター：塚原和俊さん(運営委員)

パネリスト：春原憲一郎さん 足立祐子さん(講師・運営委員)、松尾恭子さん(講師・運営委員)、

(要約筆記4名 手話通訳3名付き)



パネルディスカッションの様子

(コーディネーターが手話でコメントを行い、その手話を手話通訳者が日本語に訳してさらにその日本語を要約筆者の方が要約してPCに打ち込みスクリーン上にあらわれてくる。)

## ② 研修後の人材活用

上記研修会や今期の講座のように、日本語支援関連事業に手話や要約筆記などを持ちいることにより、分野間の理解・連携が図られると考えられる。

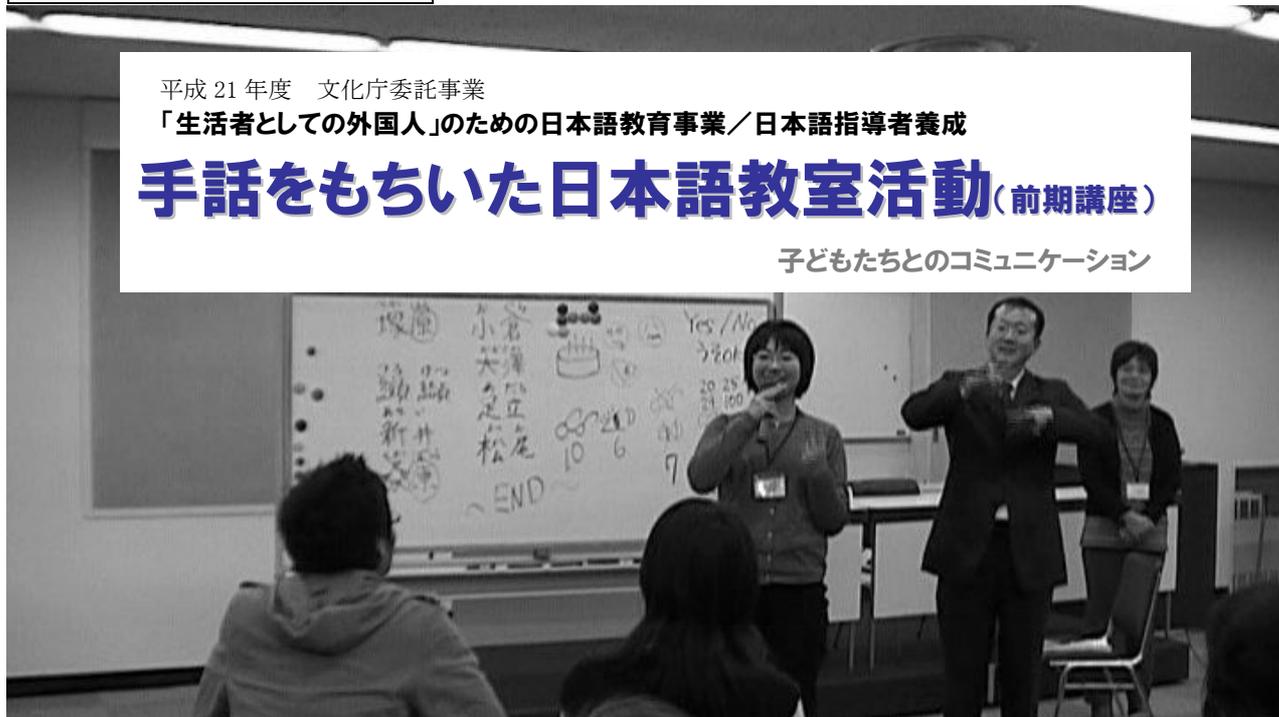
## (12) 今後の課題

学童支援・子育て支援の視点という意味での目的は達成した。

今年度までの人材養成講座は、ろう者がもちいる手話を題材にして異文化間理解やコミュニケーション法の習得が学習の中心であった。しかしこの内容だけであると自治体・大学・他市民団体との連携や団体運営など、日本語支援活動をおこなっていくうえでの運営者の実務が身につかず、自立した日本語支援活動には発展していかない可能性がある。

したがって今後の課題として、団体における運営・企画者の視点に重点をおき、日本語指導ならびに団体運営両面に適応できる人材養成講座を実施したほうが良いと考える。

## 募集チラシその1（表面）



平成 21 年度 文化庁委託事業

「生活者としての外国人」のための日本語教育事業／日本語指導者養成

# 手話をもちいた日本語教室活動(前期講座)

子どもたちとのコミュニケーション

写真：平成 20 年度 文化庁委託事業 地域日本語教育支援事業（人材育成）：手話をもちいた日本語教室活動／デモンストレーションの様子  
H20. 12.7撮影 会場：長岡市立劇場

- 日 時： 9月 13日（日）13：00～15：00（デモンストレーション）  
9月 26日（土）13：00～17：00  
9月 27日（日）10：00～17：00

- 会 場：ながおか市民センター（新潟県長岡市大手通 2 丁目 2 番地 6）  
9月 13日（日） → 1階 地球広場  
9月 26日（土）27日 → 3階 303 会議室

- 講 師：足立 祐子さん（新潟大学 国際センター 准教授）  
迫 利広さん（NPO 法人 H&D エデュケーショナル 手話通訳士）  
松尾 恭子さん（（社）国際日本語普及協会 所属講師）

- 参加費：無料



### 講座参加者 募集！ 定員 20 名

従来の日本語支援者養成講座に手話指導のノウハウを加え、外国籍住民に対する日本語支援者を養成します。手話を通じた異文化体験とおとして、コミュニケーション力アップにつながる自己表現力が身につきます。

■申込みは長岡市国際交流センターまでお願いします。



### ■連絡先

□にいがた多文化共生  
ネットワーク

・TEL・FAX 025-520-2739  
・メールアドレス  
[hide2739@joetsu.ne.jp](mailto:hide2739@joetsu.ne.jp)

□長岡市国際交流センター

・TEL：0258-39-2714  
・FAX：0258-39-2715  
・メールアドレス  
[kouryu-c@city.nagaoka.lg.jp](mailto:kouryu-c@city.nagaoka.lg.jp)

主催：にいがた多文化共生ネットワーク 共催：長岡市

## 募集チラシその2（裏面）

### □講座 特色および全体構成

●特色 在住外国籍住民に対する日本語支援者を養成する過程で手話に関連した人材および情報を取り入れる。

●構成

デモンストレーション（2時間）	参加者・関係者との意見交換
前期講座（10時間）	日本語支援+手話関連講座
後期講座（10時間）	日本語支援+手話関連講座+子育て支援

在住外国籍市民に対する日本語支援関係者および日本語ボランティア等に興味のある方を対象にした人材養成講座です。本講座は従来の日本語支援養成講座のプログラムに、情報権や異文化間コミュニケーションの視点より聴覚障がい者（ろう者）の視点や手話などを加え、伝えられない体験や日本語教室での実技を通してコミュニケーションのあり方を学習します。子どもたちとのコミュニケーションという課題を目標に、前期講座では一般人、後期講座では、それに子育て支援の考え方を加味して実施します。

### □前期 講座内容

●9月13日(日) 13:00~15:00 デモンストレーション 担当講師:足立祐子さん ゲスト 大西邦子

会場: ながおか市民センター 1階 地球広場

①デモンストレーションおよび意見交換

●9月26日(土) 13:00~17:00 担当講師:松尾恭子さん

会場: ながおか市民センター 3階 303会議室

- ①日本語支援に関する概論  
(地域日本語教室の視点、問題点・課題など、災害時に備えて)
- ②日本語教室活動・在住外国籍市民からの視点  
(地域日本語教室活動の進め方、在住外国人の視点・ニーズ)

●9月27日(日) 10:00~17:00 担当講師:迫 利広さん、足立祐子さん

会場: ながおか市民センター 3階 303会議室

- ①手話に関する概論  
(日本語対応手話と日本手話の違い、第二言語としての日本語、災害時に備えて、聴覚障がい者の日本語教育の問題・課題、日本語教室との連携の可能性)
- ②手話に関する基本実技・聴覚障がい者からの視点  
(基本的な手話の規則、自己紹介など、ろう者の視点・ニーズ)
- ③手話をもちいた日本語教室活動

主催: いがた多文化共生ネットワーク 共催: 長岡市

## 募集チラシ その3（後期チラシ 追加部分）

### □後期 講座内容

●12月12日(土) 13:00~17:00

会場：阪之上コミュニティセンター

- ①手話の単語練習
- ②聴覚障がい児童支援の現状（聴覚障がい者の子どもをもつ関係者からのメッセージ）
- ③外国籍児童支援の現状（新潟県外）
- ④外国籍児童支援の現状（新潟県内）

●12月13日(日) 10:00~17:00

会場：阪之上コミュニティセンター

- ①手話の単語練習
- ②手話をつかった簡単なコミュニケーション（注意：①の進捗状況、出席者の状況により一部内容変更あり）
- ③事例報告（子どもたちとのコミュニケーション関連）
  - ・（財）さいたま市国際交流協会 ボランティア関係者から
  - ・多世代交流館 になコーナ
- ④簡単な手話（サイン）をつかった意見交換